

7、アフリカの世界遺産	<ul style="list-style-type: none"> ・ビクトリアフォールズ ・グレートジンバブエ遺跡 	<p>自然が生み出した世界遺産に触れ、観光資源として未開発な状況を知らせる。</p>
8、中・南部アフリカの鉱工業	<ul style="list-style-type: none"> ・経済先進国アフリカ共和国 ・ジンバブエの鉱工業 	<p>南部アフリカの国々には、世界的に貴重な鉱産資源があることを知らせ、経済発展が進んでいることを理解させると共に国内社会に格差が存在することを理解させる。</p>
9、アフリカ諸国の課題（まとめ）	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカが抱える問題点（貧困・森林破壊・環境汚染・病気等） 	<p>多様性に富んだアフリカではあるが、共通の問題点があることを理解させる。</p>

（４）具体的な授業の実践例～「ジンバブエの農業」～

ジンバブエの水の確保と農業の特徴について理解すると共に、豊かな土地であったにも関わらず、苦しい状況に置かれているジンバブエの農業の不振の原因や土地改革制度を理解する。

	学習内容	生徒の活動・理解	指導上での留意点
導入	1 世界・アフリカの人々の主食	<ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシは世界の3大主食であることを理解する。 ・アフリカの主食は、地域や国により異なることを知る。 	<p>パワーポイントで世界地図を見せ、主食の分布を確認させる この単元の導入で学習した気候を振り返り、気づかせる。</p>
展開	2 ジンバブエの農業	<p>農民の生活を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度の特徴を理解し、熱帯・乾燥・温帯までの気候と降水量、雨季・乾季が有ることを知る。様々な作物が栽培されることを理解する。 	<p>農民の人形や穀物ミレットを見せ生活の様子や農作物を知らせる。パワーポイントで「マシングの気温と降水量グラフと農業暦・作物の分布地図を見せ、農業のあり方を理解させる。</p>
	3 水の問題 ・農業用水の確保 ・生活用水の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用水や生活用水の確保について理解する。 	<p>農業を通年行うには水の確保の問題があることを理解させる。 写真を見せて、フォトランゲージを</p>

	4 洪水と干ばつ	異常気象が起こることで農業が成り立たず経済的に自立出来ない国々では食糧不足や飢餓が起こることを理解する	行い、アフリカ人の水に対する苦労を理解させる。 干ばつで悲惨な状況に落ち込んだ農業を復興させることを質問形式で考えさせる。(カードを使い、農業振興政策を考えさせる。)
まとめ	5 白人社会からの脱却 (ファストトラック=土地改革)	白人の経営により安定した農業を送っていたジンバブエは、ファストトラックと呼ばれる土地改革によって混乱し、経済的に厳しい状況に置かれていることを理解する。	白人つくりあげた社会制度や経済基盤を改革によって、ジンバブエ人による国家作りを目指す指導者の存在を知らせる。国際社会から孤立した状況に置かれていることを知らせる。
	6 モノカルチャー 経済と国民生活	商品作物の収穫によって経済状況が変わっていることを知る。(たばこ、綿花の輸出などは重要な商品作物) ジンバブエの貿易の現状を知り、経済的にまた国民生活に影響があることを理解する。	農業の不振、混乱がモノカルチャー経済に頼ったジンバブエの今日の姿に反映されていることを、パワーポイントにより資料・写真で確認させる。

(5) 生徒の反応および感想

様々な手法から授業に工夫を持たせ、アフリカを再認識する授業の展開が出来たと思っている。生徒の感想をいくつか上げてみる。

「貧しいことがあからさまな場所と反対に豊かな生活をしている人がいる。格差が大きい。」

「TVで見るアフリカは飢餓などのマイナスイメージが強いので意外であった。」「世界にはいろいろな生活があるんだな。テレビとかお風呂とか学校も勉強もアフリカの人たちは当たり前なんだ。」「アフリカのイメージは変わって、貧しい国でもたくさん良い所があるんだな。」

「食べる物や着る物が不足していて、ホテルやスーパー、きれいに舗装された道路やレストランもある。」「乾季にあれだけの水量があれば、灌漑施設を整備すれば農業ももっと豊かになって、生活も豊かになるのではないか。」「アフリカは想像以上に発展していて、首都や大きな都市は大きな商店もあり、水道も電気も整備されている事を知った。」「病気の対しての弱さを感じた。エイズの深刻な問題で、予防も、治療もたいしたことが出来ていない。」「授業をする前の

アフリカのイメージは、黒板に書いたように貧しい、動物、黒人だった。私だけでなく、皆そう思っていた。実際貧しいところもあったが、発展しているところもあった。貧しい人たちは、決して泣いたり、ふさぎ込んだりしているだけでなくとても素敵なお顔をしていた。」「日本という先進国で暮らしている私たちが、食べ物を無駄にしていたり、不満ばかり言っていることはおかしい。」「アフリカの貧富の差はどうにかならないのか。」「アフリカのイメージは熱帯雨林と砂漠。現実には都市に行けばCBDは高層ビルやショッピングセンターが揃っている。全く意外だった。」「水質汚染や都市の工場地帯の排煙を見ていると環境も問題だ。」「サザを作って食べたとき、美味しくはなかったけど、もっと栄養がない食べ物を食べていると思っていたので以外。」「暑いし、貧しいし、大変そうだと思っていたけれど、写真やビデオを見ていると驚くことがたくさんあった。刺激があった。」「先生の出発前に私たちが答えたアンケートとジンバブエの高校生の考え方がかなり違うことに不思議な感じがした。」

地理的な視点から着目することだけでなく、現地で感じたこと、感動したことをいかに教材化して生徒に伝えることが出来るか。それが社会科の授業、国際理解教育、開発教育に関わる上で最も必要なことだろう。そして醍醐味であることも実感できた。

ジンバブエの研修では、この課題を解決させる大きな収穫を得ることができた。自らがアフリカの大地に立って判ったことは多い。地理の教師の視点だけではなく、訪問する先々での人々との交流から、ジンバブエの人々が厳しい社会状況に置かれながらも、明るくたくましく生きている姿には感銘を受けた。改めて広い視野に立って、国際理解への取り組みを深め、我々自身感じたことを教材化し、生徒に気づかせて行きたい。

(6) 授業で使用した写真の一部



左 水汲み



右 ハットの内部で



左 ビクトリアの滝



右 水を運ぶ女性



左 エイズ孤児院



右 農民の家(ハット)